

上関町小中一貫教育構想

平成 22 年 2 月 1 日
上関町教育委員会

1 小中一貫教育の理念

義務教育の 9 年間で上関の子どもを見守り育てていこうという「小中一貫教育」を本町教育の基本理念とし、21 世紀を生きる、心豊かでたくましい児童生徒の育成を図る。そのために「教育段階の工夫」、「確かな学力の育成」、「心の教育の充実」、「学校行事・総合的な学習の時間の改善」等を通して、校種の枠組みを超え、教育活動を充実・改善した小中一貫教育の実践に取り組む。

2 教育段階の工夫

小中学校の 9 年間で、前期教育(小 1～小 4)、中期教育(小 5～中 1)、後期教育(中 2～中 3)に区分し、児童生徒の発達段階に応じた教育を志向する。

3 確かな学力の育成

確かな学力の基礎となる(国語、算数・数学、小・中英語等)の重点的指導に取り組む。

- ・前期教育においてはコミュニケーション能力など、9 年間の学びの基礎となる学力の指導の充実を図る。
- ・中期教育においては小中一貫学習支援員による授業や小中学校教員の乗り入れ授業により、学習面、生徒指導面での小中の段差の解消を進めることを目指す。
- ・後期教育においては中学校卒業後を見据え、学びに対する自発性・自主性を伸ばすことを目指す。

4 心の教育の充実

これまでの道徳教育の研究実践の土台に立ち、三つの教育段階ごとに指導方法を工夫し、より一層の充実を目指す。

5 学校行事・総合的な学習の時間の改善

- ・学校行事・総合的な学習の時間を小中一貫教育の視点から見直す。
- 総合的な学習の時間を見直し、小中 7 年間の枠組みの中で特に地域学習分野、国際交流活動分野に重点をおいて再構成する。
- ・地域学習分野では、ふるさと上関町の自然、歴史、大陸との文化交流等、歴史と伝統を学ぶ。
- ・国際交流活動分野では、教育課程特例校指定を受け、小学校第 1 学年から外国語活動を実施するほか、中学生等海外派遣事業も実施する。また、歴史的に本町と親交の深い大韓民国との交流や、官制移民を通じて同じく親交の深いアメリカ合衆国(ハワイ州)との交流等を目指す。
- 学校行事を見直し、小中が連携して様々な取組を進める。
- ・小中合同行事の実施
- ・異学年交流の実施

6 その他

- ・小学校、中学校という基本的階梯は維持し、児童生徒の成長に重要な役割を果たす節目は大切に。また、三つの教育段階や分野に着目し、研究を進める。
(・祝島小学校においては、上関小学校との交流学習を軸に、共同研究に参画する。)